Vol.163
紀元2684年
令和6年
初夏号
宮崎神宮社務所

宮崎神宮 養正（ようせい）

境内のキビタキ

「養正（ようせい）」とは

神日本磐余彦天皇が第一代の天皇に即位（そくい）される際のご聖勅（せいちょく）「上（すなは）ハ則（すなは）チ乾靈（あまつかみ）ノ國ヲ授（さず）ケタマヒシ徳（みうつくしび）ニ答ヘ、下ハ則（すなは）チ皇孫（すめみま）ノ正（ただしきみち）ヲ養（やしな）ヒタマヒシ心（みこころ）ヲ弘メム」からいただいた由緒ある名称です。

ごあいさつ

宮司　本部雅裕

盛夏の候　養正講員、また氏子崇敬者の皆様にはますますご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。

当宮﨑神宮は、神日本磐余彦天皇、のちの人皇第一代神武天皇様を主祭神として、また御祭神の両隣に御父君鵜鸕草葺不合尊と、御母君玉依姫命を合はせてお祀り申し上げてをります。つまり、神武天皇様は今もなほ、ご本殿の奥深くご両親の神に見守られてお鎮まりになってをられるのです。

申し上げるまでもなく我が国の歴史では、人皇第一代神武天皇様からが人の代であり、その先代である鵜鸕草葺不合尊と玉依姫命の世は神代の最後といふことになります。

このことを考へますと、宮﨑神宮は、神代と人の代とを結ぶ神々をこのやうなかたちでお祀りしてゐることになります。ここに宮﨑神宮ご鎮座の意義があると私は考へてゐます。それは我が国が神の国であり、また私たち日本人が神々の子孫であり、また神代から現代まで連綿と続く国史・国柄をも物語ってゐると考へられるからです。

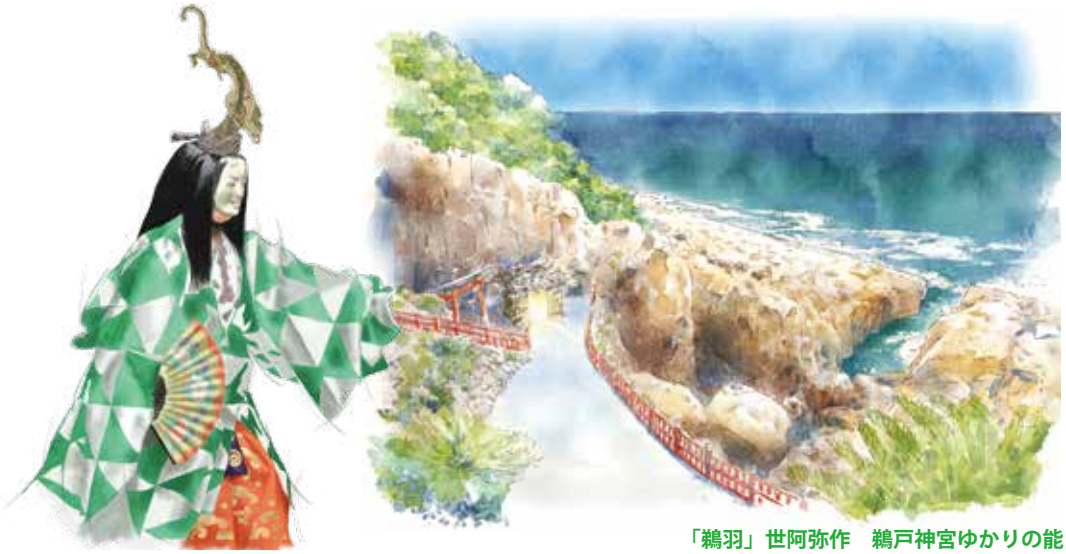
さて、「養正」の前号でも報告しましたやうに、昨年十月には神武東遷を題材にした新作能「神武」を宮﨑神宮本殿前で奉納し、五〇〇名の方々に「神武建国」の一端をご覧いただきました。

そして今年の五月には、鵜戸神宮境内において鵜鸕草葺不合尊とその母君豊玉姫命を題材にした「鵜羽（うのは）」が上演されました。室町時代から続く世阿弥作の古典能です。鵜鸕草葺不合尊ご生誕の地で初めて舞はれた画期的な企画でした。私もご招待を受けて鑑賞しましたが、御祭神の出生の由来を説き、満珠、干珠の玉を操って潮の満ち干を表現し、また豊玉姫の妖艶な舞を通して御子を残し海神の宮に帰らざるを得なかった命の悔しさを舞ふ姿に、魂が揺さぶられる思ひがしました。

このやうに御祭神や、日本の神々をさらに理解するには、「記紀」はもちろん古典芸能を通してまた、音楽や他のあらゆる方法をも使って、さらに深めることもできると考へさせられたのでした。

まだまだ暑い毎日が続きます。どうぞ、お身体お気を付けになりお過ごしくださいますやう祈りをります。

また神武さまの大前でお会ひ致しませう。



「鵜羽」世阿弥作　鵜戸神宮ゆかりの能

同パンフレットより転載

神武養正講社

令和五年度事業報告

▼祭典は案内や直会等コロナ禍以前の形式で斎行。▼御神幸祭（神武さま）は瀬頭御旅所間を往復。両日とも講員約二十名が供奉。▼総会は神宮会館にて開催。終了後に宮司より講話を賜る。▼理事会は三回開催。▼第四十七回皇居勤労奉仕団は、令和元年以来の奉仕（期間は一日短縮）。天皇陛下よりご会釈を賜る。▼社報『養正』二回配布。▼年末より三月末日まで正月破魔矢、神符の授与。

令和六年度事業計画

▼四月三日神武天皇祭併講社大祭は、約百十名が参列。神事流鏑馬は雨天中止。▼御神幸祭は十月二十六・二十七日に大淀御旅所往復にて斎行予定。▼理事会は三回開催予定。▼総会は神宮会館にて開催。総会後に新作能『神武』ＤＶＤ鑑賞。▼第四十八回皇居勤労奉仕団は、十一月に派遣予定。団長は森山福一監事。▼社報『養正』を二回配布。▼正月に破魔矢、神符を授与予定。

役職員新任

・理事　三森政雄

令和六年五月七日付

一般会計決算及び予算

科目	令和５年度決算額	令和６年度予算額	備考
（歳　入）			
諸収入	742,266	921,605	
講費収入	715,765	880,000	講員５区分
受取利息	1	10	普通預金利息
雑収入	26,500	41,595	寄附金他
前期繰越	610,626	468,395	
歳入計	1,352,892	1,390,000	
（歳　出）			
講社費	834,497	1,260,000	
事業費	379,259	530,000	神徳宣揚費 他
会議費	103,956	150,000	総会、理事会費
本部費	263,842	420,000	奉仕団諸費、通信費他
御神幸祭費	87,440	130,000	直会費　他
予備費	0	30,000	
式年遷宮積立金支出	50,000	50,000	第63回神宮式年遷宮
次期繰越	468,395	80,000	
歳出計	1,352,892	1,390,000	

一般会計次期繰越金

区分	残高
現金	122,941
郵便振替	298,990
普通預金	46,464
合　計	468,395

積立金会計決算

区分	金額
受取利息	189
前期繰越金	10,878,888
合　計	10,879,077

遷宮積立金会計決算

区分	金額
前期繰越	450,015
受取利息	4
繰入金収入	50,000
合　計	500,019

令和6年5月7日、川越悦生、森山福一両監事に監査を受けました。

皇居勤労奉仕団

昭和天皇御製
戦ひにやぶれしあとのいまもなほ
民のよりきてここに草取る

皇居勤労奉仕は、昭和二十年五月に空襲で消失した宮殿の焼け跡を整理する為に、同年十二月に宮城県内の有志が奉仕したのが始まりとされてゐます。

神武養正講社では、昭和四十八年に第一回が開催され、本年で四十八回目を迎へます。

参加希望の方は、宮崎神宮までお申し付けください。

昭和天皇より御会釈を賜る団員（昭和55年11月６日）

団員募集のお知らせ

例年５月中に、11月奉仕の申請書を宮内庁へ提出致します。但し抽選の結果により、12月以降に奉仕する場合もありますのでご承知置きください。

参加資格は、75歳以下の神武養正講社講員。（奉仕時に入講でも可）

【昭和改元百年】

昭和天皇御親拝回顧

「昭和」とは「書経」の堯典にある「百姓昭明協和万邦」といふ語句にもとづいて名づけられました。
昭和天皇は御齢二十五歳にして践祚遊ばされ、歴代天皇の中でも最も長く御在位されました。
昭和天皇と宮崎神宮の関係は極めて深く、皇太子時代を含めて六度のご親拝がありました。
明年昭和改元百年の節目に迎ふるにあたり、改めて社務日誌を紐解き、昭和期におけるご親拝のご様子について転載致したく存じます。
（当時の記載に誤りも見受けられるが、そのまま記した。）

昭和10年11月14日　御先導神尾清澄宮司

◆・◆・◆・

【大正十五年大正天皇崩御】

十二月二十五日

一、陛下崩御ノ旨本朝午前五時縣ヨリ通知ニ接ス
一、神前へ取敢ズ此旨小川主典報告ス
一、午前九時ヨリ大行天皇遙拝式ヲ行フ
一、午前十二時第四小學校ニ於テ大行天皇遙拝式執行ノ旨申出ニ付小川主典岩切出仕同校へ出張奉仕ス
一、御詔書発布　即日新年号施行サル
　朕皇祖皇宗ノ威霊ニ頼リ大統ヲ承ケ萬機ヲ統ブ茲ニ定制ニ遵ヒ元号ヲ建テ大正十五年十二月二十五日以後ヲ改メテ昭和元年ト為ス
　御名御璽
　大正十五年十二月二十五日
　　各大臣副署
一、天機奉伺ノ為メ左ノ如ク打電ス
　宮崎神宮々司　横山秀雄
　宮内大臣一木喜徳郎宛
　案
　先帝陛下崩御被遊恐懼ノ到ニ不堪
　謹テ
　奉伺
　天機
　先帝陛下崩御被遊恐懼ノ到ニ不堪
　謹テ
　皇太后陛下ノ
　奉伺
　御機嫌

◆・◆・◆・

【昭和十年陸軍特別大演習の砌】

十一月十四日　木曜　晴

一、無風好晴絶好ノ御親拝日和ナリ
當朝早天ヨリ装飾弁備
午前七時三十五分祭員参進、開扉、献饌、献幣、宮司祝詞奏上ヲ畢リ、禰宜祗候諸員所定ノ席ニ就キ、御着輦ヲ待チ奉ル
午前九時六分著御、第一鳥居際ニテ御降車、神

尾宮司、館神社局長、加藤県學務部長奉迎、宮司ノ御先導ニテ浄砂上ヲ御参進、拜所ニテ御手水（侍從奉仕）、御修祓（大工原主典奉仕）、更ニ御参進ノ上、御昇殿本殿階下浜床上ニ御止立、宮司ノ奉ル御玉串ヲ鈴木侍從長ヲ経テ御手ニ受ケ給ヒ御拜ノ后侍從長ヲ経テ宮司ニ授ク、宮司拜受シテ昇階、奉奠シテ降階スレバ御拜ノ后宮司ノ御先導ニテ御退下、第一鳥居際ニテ御乗車、九時十六分発御遊バサル

皇宮屋御巡覧（昭和10年11月14日）

神尾宮司以下ハ奉送ノ后、更ニ昇殿、引キ續キ撤幣、撤饌、閉扉ヲ畢リ降殿退下
陛下本日ノ御服装ハ陸軍通常服ニシテ、扈従セルモノ鈴木侍從長、本庄侍從武官長、本多行幸主務官其他ナリ
特別奉拜者ハ本宮職員家族、評議員、協議員会員、県内神職等約三百名ナリ
一、神尾宮司ハ御禮言上ノタメ行在所ニ伺候
　又、御親謁拜観ノタメ同場ニ出向セラル
一、参拜者員数十九、一一六名

十一月十五日　金曜　雨

一、神尾宮司ハ聖駕奉送ノタメ宮崎駅出向

十一月十六日　土曜　晴

一、御還幸御平安祈願祭　宮崎県ノ依頼ニヨリ

◆・◆・◆・

【昭和二十四年戦後全国御巡幸の砌】

六月六日　月曜　曇後雨

天皇陛下御参拜奉告祭斎行（宮司以下午前九時半奉仕）
幣饌料大前に御奉献遊ばさる
午前十一時五十分徴古館に御到着遊ばされ御晝食の御後零時三十五分御参拜遊ばさる
宮司以下職員一同指折りかそえてお待ち申し上げました今日六日午前十一時五十分頃（予定よりおくれられて）陛下の御紋章輝く小豆色の大鳳輦は万歳の連呼のうちに静かに玉砂利を滑って神橋を渡り徴古館西入口に停車せり
陛下には徴古館にて御晝食遊ばされ零時三十五分縣知事の御案内にて御進み遊ばされ授與所前より知事に代りて宮司の御先導にて拜所と神門の中央のオハマユカにて親しく御拜禮遊ばさる
天皇陛下を祖国日向にしかも皇祖神武天皇神鎮り坐す神宮に御奉迎申し上げ宮司以下皆〳〵感激の涙にくることしばし神苑の樹々も歡喜にしたゝる様子色を増して気付かはれし空もさわやかに見受けられたり　陛下には御拜禮の後授與所前にて御乗車手水舎前に奉迎の職員にしたしく御會釈賜はりつゝ神苑にこだます萬歳の聲に大鳳輦は送られて住吉村へと御出発遊ばさる
當日陛下は背廣にて御参拜の為玉串の御奉奠はなし
神武養正講社役員並に終身講員特別講員は二の鳥居両側にて、職員の家族は社務所前にて御奉迎申し上げたり
宮司以下職員一同に御煙草の御下賜あり感激又ひとしほなり

六月七日　火曜　雨

一、天皇陛下御参拜奉告祭御斎行に付本日直會を行わる
　荒川、有馬、富永評議員、吉松縣建築課主任、湯浅、江川、長山各氏及徴古館並境内整備清掃に奉仕せる一同を招じ大御稜威乃弥高きを虔奉し慶祝を頒つ可く午後五時より宮司挨拶の後貴賓室に於て直會を賜う

◆・◆・◆・

【昭和三十三年全国植樹祭（大分県）御臨席の砌】

四月九日　水曜　曇

一、天皇皇后両陛下御親拜奉告祭
　午前十一時　思召の幣帛料奉奠
御親拜　午後三時二十分
先、両陛下社務所前三ノ鳥居にて御下車
　宮司御先導
次、拜所にて御手水の儀（女官奉仕）
次、御祓の儀（清水・菅原両権禰宜）
次、御昇殿御着座
次、天皇陛下玉串を奉りて御拜礼
次、皇后陛下玉串を奉りて御拜礼

幣殿内の様子（昭和33年４月９日）

次、御退下
次、宮司拜所の外にて御手植（天皇陛下皇太子の御時、皇后陛下女王殿下の御時、大正天皇皇太子の御時）及廿四年行幸御手播の木御説明
次、宮司神門外にて、義宮、高松宮、三笠宮三殿下の御手植及特別奉迎者御説明
次、三の鳥居にて御車を召され御播種地に向わせらる
社務所横より護國神社東の御播種地にお進み、松の種を御手播、御車は再び社務所横より社務所前枡型、正面参道を御還幸
一、畏き思召の護國神社への幣饌料拜受のため宮司午後四時半御宿舎観光ホテルへ伺候、尚天機奉伺の記帳す（鵜戸神宮別所宮司、都農神社井上宮司同道）
一、午後二時一般参拜者とめらる
一、境内にて特別奉迎送者の受付
　西神苑及護國神社に設ける
一、特別奉迎者
　1、第二鳥居より授与所の間
　神宮責任役員五名
　荒川、日髙、岩切、富永、猪俣各責任役員
　縣内神職代表二一名　縣内総代代表九名
　市町村遺家族代表二百名
　2、第二鳥居より西参道までの間
　地元遺家族約四百名
一、御播種地特別奉迎者林業関係三百名

四月十日　木曜　曇

一、天皇皇后両陛下御奉送の為宮司（高橋嘱託随行）宮崎駅へ出向午後一時三十五分御奉送申上げる

◆・◆・◆・

【昭和四十八年全国植樹祭御臨席の砌】

四月六日　金曜日　晴後曇

一、宮司菅原禰宜随行午後一時半御泊所に伺候幣帛料並に幣饌料を拜受　午後三時帰宮

四月七日　土曜日　曇

一、午前九時臨時大祭斎行　宮司以下奉仕
一、天皇陛下皇后陛下御親拜
思召の御幣帛料奉幣奉告祭
御親拜午前十時十一分
先　両陛下社務所前三ノ鳥居にて御下車
　宮司御先導

昭和33年４月９日　御先導片岡常男宮司

昭和48年４月６日 御先導甲斐武教宮司

御奉迎の様子（昭和48年４月６日）

次　御祓の儀（渡部禰宜津田権禰宜）
次　御昇殿、御着座
次　天皇陛下御玉串を奉りて御拝礼
次　皇后陛下御玉串を奉りて御拝礼
次　御退下
次　宮司退下中、御手植
　天皇陛下皇太子御時皇后陛下女王殿下の御時大正天皇、皇太子の御時及二十四年行幸御手播の木御説明に皇后陛下大木くなってと宮司に御言語有り
次　天皇陛下皇后陛下日の丸の旗を持萬歳有り
一、畏き思召の宮崎県護國神社への幣饌料有
　天皇陛下皇后陛下御親拝有り　宮司御送申し上げる
一、特別奉迎者
　1、神門内
　神宮責任役員、県議会議員、神宮総代講社、宮崎県神社庁、神青会、神宮敬神婦人会、氏子青年会
一、準特別奉迎者
　2、神門外
　県内敬神婦人会市内老人会一般奉迎者五、〇〇〇名の人波
一、記念植樹樅二本宮司以下職員神門内へ

◆・◆・◆・

【昭和五十四年宮崎国体御臨席の砌】

十月十三日　土曜　晴

一、天皇陛下御親拝
　行幸安全祈願祭（小祭）午前九時
　宮司以下奉仕
　御親拝奉告祭（大祭）午後二時　宮司以下奉仕
　思召の幣帛料・神饌料奉奠
　御親拝　午後二時四十四分
　先　天皇陛下授与所前にて御下車
　宮司御先導
次　拝所にて御祓いの儀
次　幣殿木階下にて天皇陛下玉串を奉りて御拝礼
次　御退下
　特別奉迎者の万才三唱の内に御退下され授与所前にて御乗車平和台公園に向わせらる
一、午後二時一般参拝者とめらる
一、授与所前に特別奉迎者受付所設ける
一、特別奉迎者
　1、神門内西斎庭
　神宮役員総代・県内神職・崇敬者
　2、神門外西斎庭
　敬婦人会・氏子青年・遺族ブラジル県人会
　3、授与所前
　神宮職員並家族

附記（『養正』昭和五十五年一月一日号より）
行幸を記念し第二鳥居改築（昭和五十四年九月十二日竣工）
※以前の鳥居は昭和十五年紀元二千六百年を奉祝して福岡日日新聞社が奉献したものである。老朽化により改築され、之を削って末社入口の赤鳥居に改築した。

◆祭典・奉納行事

一月
一日　歳旦祭　夕御饌始祭　氏子青年会新春禊
新春奉納揮毫作品展（三九七点）於徴古館（十五日迄）
二日　大御饌祭　新春奉納芸能
三日　元始祭　新春奉納芸能
七日　昭和天皇祭遙拝
八日　元服式（烏帽子親　小山田敏氏・元服者五名）
成人祭　第五十二回新春奉納揮毫作品展表彰式於社務所

二月
一日　宮崎空港ビル五所稲荷神社初午祭
三日　節分祭　追儺行事
六日　ＭＲＴ五所稲荷神社初午祭
十一日　紀元祭　垣内煌覇氏奉納揮毫
奉祝式典（日本会議主催）紀元祭奉祝四半的大会
第四十八回建国記念の日奉祝市民マラソン大会
十七日　祈年祭　御稲種頒種行事
十八日　摂末社祈年祭

ＭＲＴセンター五所稲荷神社

昭和５９年９月１日、㈱宮崎放送現社屋（宮崎市橘通）が建設されました。これに先立つ８月３０日には当宮末社五所稲荷神社を分祀、社屋屋上にＭＲＴセンター五所稲荷神社としてお祀りされました。
爾来、例祭をはじめとして、ご祭神に所縁ある初午の日付近には初午祭及び毎月の月次祭を、関係者ご参列のもと欠かすことなく執り行ってゐます。
なほ、本年は御鎮座より40年の節目にあたります。

二月二十三日　天長祭
摂社破魔矢祭（旧正月十四日）
三月　十九日　末社初午祭（旧二月初午）
二十日　春季皇霊祭遙拝　春分祭
二十五日　宮崎空港ビル五所稲荷神社例祭
四月　二日　神事流鏑馬川原祓の儀
三日　神武天皇祭遙拝　神武天皇祭併神武養正講社大祭
神事流鏑馬　※雨天により中止
二十九日　昭和祭
五月　十四日　御衣祭（市呉服商有志協力　御衣司　宮下英泰氏）
六月　二日　献茶祭（県茶商連合会協力　献茶司　田村秀悟氏）
八日　御田植祭　於御神田（田長　秦安廣氏）
二十一日　天皇皇后両陛下英吉利国御渡航行幸啓安泰祈願祭
三十日　天皇皇后両陛下英吉利国御渡航還幸啓奉告祭
古神符焼納祭　夏越大祓　茅の輪くぐり神事
※毎月　三日　月次祭（一・四月を除く）
毎月十五日　講社月次祭

すこやか鯉のぼり幣

５月５日は男の子の健やかな成長と幸せを願ふ端午の節句です。当宮ではゴールデンウィーク期間中ご社殿前に鯉のぼりを飾り、新たに「すこやか鯉のぼり幣」を授与（初穂300円）致しました。
イラストには思い思いの色を塗っていただき、ふたつとない色鮮やかな鯉のぼりに喜ばれてゐるお子様の姿が見受けられました。

◆正式参拝・団体祈願等◆

【令和五年十二月】一日バッグのあつた安全祈願▼五日浪打八幡宮名社巡り参拝団正式参拝▼六日霧島神宮前通り会正式参拝▼七日九州畳組合連合会畳奉納奉告祭▼十七日日本青年会議所褒賞委員会事業成功祈願▼十九日大峰蛇之倉七尾山正式参拝▼二十七日宮崎大宮高等学校美術部正式参拝※干支絵馬奉納

【令和六年一月】一日宮崎神宮氏子青年会正式参拝▼二日神事流鏑馬射手稽古始正式参拝／宮崎青年会議所太鼓同好会正式参拝※奉納芸能／宮崎藤星会正式参拝※奉納芸能▼三日秋月会・清流会正式参拝※奉納芸能▼六日宮崎青年会議所団体厄祓▼十日宮崎労働基準協会産業安全祈願祭▼十八日宮崎県神社庁正式参拝※初任神職研修会▼十九日日南市観光スポーツ課クルーズ船招到前視察参拝▼二十日岩田賢士氏御一行団体古稀祈願／皇統を守る国民連合の会正式参拝▼二十三日皇學館大学正式参拝▼二十六日ＰＯＮＡＮＴ日本韓国支社長視察正式参拝▼三十一日読売ジャイアンツ必勝祈願▼年頭参拝二二三社（一日～三十一日）

【二月】三日読売巨人軍ファン受験生合格祈願祭▼四日垣内煌覇氏正式参拝※奉祝書奉納▼七日東建協力会安全祈願▼十三日新生テクノス工事安全祈願▼十六日三共サービス宮崎事業所安全祈願▼十七日易選流協会・那由多一同正式参拝▼二十日國學院大學硬式野球部正式参拝

【三月】一日宮崎市消防団防火祈願祭／宮崎サンシャインズ必勝祈願／ガイアート安全祈願▼八日ＴＤＹリモデルセール正式参拝▼十三日ＪＡ宮崎中央マンゴー部会マンゴー初出荷奉告祭▼十七日龍玉の会正式参拝※勾玉奉納▼二十三日宮崎神宮宮童卒業・進級式▼二十六日宮崎県茶協同組合安全祈願▼二十九日全国共済農業協同組合連合会目標達成祈願祭

【四月】一日宮崎県農業協同組合社運隆昌祈願／テレビ宮崎社運隆昌祈願／宮崎太陽銀行社運隆昌祈願／テレビ宮崎商事社運隆昌祈願／かえる社内安全祈願／ぬるま湯と情熱の間社運隆昌祈願／九州エナジー社運隆昌祈願／佐土原サニタリー社運隆昌祈願／ユクシオグループ九州支店社内安全祈願／システム開発安全祈願／宮崎電子機器社運隆昌祈願▼六日リクリア商売繁盛祈願▼八日建設サービス安全祈願／イチケン工事安全祈願▼十一日木下サーカス事務所開き／宮崎神宮敬神婦人会正式参拝※定例総会／宮崎商工会議所青年部事業安全成功祈願／イチケン工事安全祈願▼十二日ゆげレディスクリニック安全祈願▼十四日右松たかひろ後援会祈願▼十八日 宮崎県神道青年会正式参拝※定例総会▼二十日新田家銀婚式▼二十四日宮崎県神社庁宮崎市支部正式参拝※通常総会

ご社殿前の鯉のぼり

【五月】八日鎮西大社諏訪神社正式参拝▼十日宮交グループ創立記念奉告祭／ＪＡ宮崎経済連安全祈願▼十五日後藤祐基氏・章樹屋本舗献灯奉告祭▼十七日鎮西大社諏訪神社正式参拝▼二十六日宮崎神宮宮童委嘱奉告祭併奉仕安全祈願祭▼二十九日山梨県神社庁正式参拝▼三十日インスパイア安全祈願

宮童委嘱奉告祭（５月26日）／毎朝夕の御日供祭神饌を、講員宅から当宮まで届けていただく子供たちを宮童（きゅうどう）といひます。80年以上の歴史があり、本年は39名にご奉仕いただきます。

◆能登半島地震義捐金御礼

去る一月一日に能登半島にて発生した大地震とそれに続く余震により、石川県をはじめ北陸地区に甚大な災害が発生しました。一日も早い復興を願ひ、神社本庁では被災した神社が速やかなる災害復旧に対応できるやう全国神社等に篤志を募り、当宮でも社頭にて義捐金を募集致しました。

【期　間】一月二十七日～三月十四日

【金　額】七一八、五一二円

義捐金は被災神社庁を通じて各神社へ贈呈されました。ご協力賜りました皆様に衷心より御礼申し上げます。

”献詠短歌“

「宮崎神宮献詠短歌会」は、昭和十六年三月に発足しました。爾来八十有余年の長きに亘り、三十一文字に思ひを込めて献歌してきました。

■令和五年被表彰者

成績優秀者に対し、選者より推薦を受けて表彰を行ひました。

宮崎神宮賞　河野　公俊
選者賞　牧　忍

■献詠募集　選者　小池　洋子

ハガキに楷書で丁寧に一首と氏名、住所、電話番号を明記の上、宮崎神宮までお送りください。

※令和六年兼題
七月　根　　八月　風
九月　みかん　十月　旅
十一月　種　　十二月　書

※毎月五日締切
※選考結果は毎月末に応募者宛にお送り致します。

■問ひ合はせ先

宮崎神宮献詠短歌会事務局
電話〇九八五（二七）四〇〇四
担当　須田　出光　河野

■令和五年十二月　兼題「歩」

天
灯されし参道歩けば閉殿の太鼓の音の低く響けり
宮崎市　須田　明典

地
千歳飴手に持ち歩く幼児は皆誇らしげ動画に撮らる
宮崎市　松元　由茉

人
今となり元気に育つ吾子なれど最初の一歩の記憶我なし
宮崎市　出光　弘忠

秀逸
検診日日傘かたむけ二十分老いて歩ける幸せとせむ
宮崎市　和田　洋子

伸びのびの終活いよいよ迫らるる夫と歩み来し六十二年の
宮崎市　鐘ヶ江和貴

佳作
霜の朝思い出される農作業幼き頃の麦踏みの一歩
宮崎市　梅崎　辰實

人生の歩みとめれば追ひこさる「水戸黄門」の歌を忘れじ
日南市　黒岩　昭彦

■令和六年一月　兼題「夢」

天
夢なかば戦に斃れし御霊偲びひむかひの塔に真清水供ふ
宮崎市　本部　雅裕

地
年始めえくぼ浮かべる寝顔の吾子楽しい夢を見ているのかな
宮崎市　寺澤　亮太

人
初夢を見た記憶なし徹夜明けの正月過ごす巫女我なれば
宮崎市　戸髙美紗妃

秀逸
幼な名で呼び会いし友皆逝きぬ夢でもいいよ姿見せてよ
宮崎市　和田　洋子

巫女として眠気と闘ひ奉仕する家族と過ごす正月夢みて
宮崎市　河野杏実果

佳作
妻と子と語りし夢はただ一つディズニーランドへ再度行きたし
宮崎市　出光　弘忠

命乞ひせし日のありしわが夫の卒寿を祝ふ夢のごとしも
宮崎市　黒木和貴子

■令和六年二月　兼題「道」

天
途切れなくカメラ居並ぶ参道に巨人選手を吾れ導けり
宮崎市　出光　弘忠

地
道の辺のわれに会釈し通り過ぐ耕運機に乗る老いたる人が
宮崎市　小松　京子

人
年明けの能登半島に地震ふれて道といふ道龍の背の如
宮崎市　本部　雅裕

秀逸
鵜戸さんの道中唄は春らんまん「シャンシャン」鈴おと花嫁のゆく
日南市　黒岩　昭彦

慣れし道白き息吐き渡り終へ半ズボンの児挨拶清し
宮崎市　河野　公俊

佳作
娘の住まふ中山道の高宮宿らふそく屋ありちやうちん屋あり
豊島区　野田　香織

グラウンドゴルフ続けてきて二十年色あせて綻びし道具入れを繕ふ
宮崎市　甲斐嘉一郎

君の行く道の長手に幸あれと別れの盃を高くかかげり
宮崎市　須田　明典

■令和六年三月　兼題「山」

天
山里に求めし芍薬咲くを待ち夫へ
写メールす固きつぼみを
宮崎市　冨満　恭子

地
山なりの打球必ずアウトとは限ら
ない走れ走れ走れ
文京区　遠藤　玲奈

人
山積みの夫の洗ひ物抱へつつ病院
出づれば陽のあたたかし
宮崎市　黒木　和子

秀逸
ゆふぐれの厨にひとり山鳩の啼く
を聞きをり母の命日
宮崎市　黒木和貴子

頂きを目指して登る韓国岳サッ
カー仲間と声掛けあいて
宮崎市　寺澤　亮太

佳作
ぼろいしと耳に親しき山の名の漢
字表記をこのごろ知りぬ
豊島区　野田　香織

戦後のふるさとの山に分け入りて
従兄と野兎追ひし日はるか
宮崎市　小松　京子

どんな時も変らず在す尾鈴山白髪
になりてなほ故郷を恋ふ
宮崎市　鐘ヶ江和貴

■令和六年四月　兼題「師」

天
シシ狩りを終へし猟師は山神に感
謝のことば訥々と宣ぶ
日南市　黒岩　昭彦

地
毎月の歌の批評に師の思ひ込めら
れたるを読みとり行かむ
宮崎市　須田　明典

人
人生で一番の師と仰ぎしは取りも
直さず父母なりと思ふ
宮崎市　松久　寅雄

秀逸
セピア色の卒業写真に見る教師戦
後間もなき軍服姿
宮崎市　小松　京子

師の君の五十年経ても掛かりくる
電話の声は「がんばっちょるね」と
宮崎市　本部　雅裕

佳作
人並に反抗時期をやり合ひし息子
は大学に師と呼ばれゐる
宮崎市　鐘ヶ江和貴

初めての師の手ほどきの農作業収
穫の野菜は自慢のたねに
南九州市　赤坂よし子

音楽の教師をめざす吾が孫の奏で
るピアノ目をとじて聞く
宮崎市　黒木和貴子

■令和六年五月　兼題「牛」

天
祖父の後継ぎて牛飼ふ乙女子の迷
ひなき笑顔まぶしく見たり
宮崎市　鐘ヶ江和貴

地
口蹄疫の無念を秘めて励む友けふ
は仔牛の生まるを告げ来
宮崎市　黒木和貴子

人
歩行器の外れし夫はひた進む牛歩
のごとく遅くはあれど
宮崎市　黒木　和子

秀逸
息子の友が「高値で牛が売れたから」
と吾に買ひ呉るる自販機の茶を
宮崎市　黒木ふさを

信号に停まるトラックの荷台には
牛が数頭不安げに鳴く
宮崎市　和田　洋子

佳作
門口に消石灰の撒かれしは牛飼ふ
家か疫禍経てなほ
宮崎市　須田　明典

走る先阿蘇の大地は緑燃ゆ目にと
び込むや赤牛の群れ
宮崎市　鈴木クニ子

残業を終へて帰宅の車中にコー
ヒー牛乳ゴクリと飲みぬ
宮崎市　松元　由茉

◆職員動向

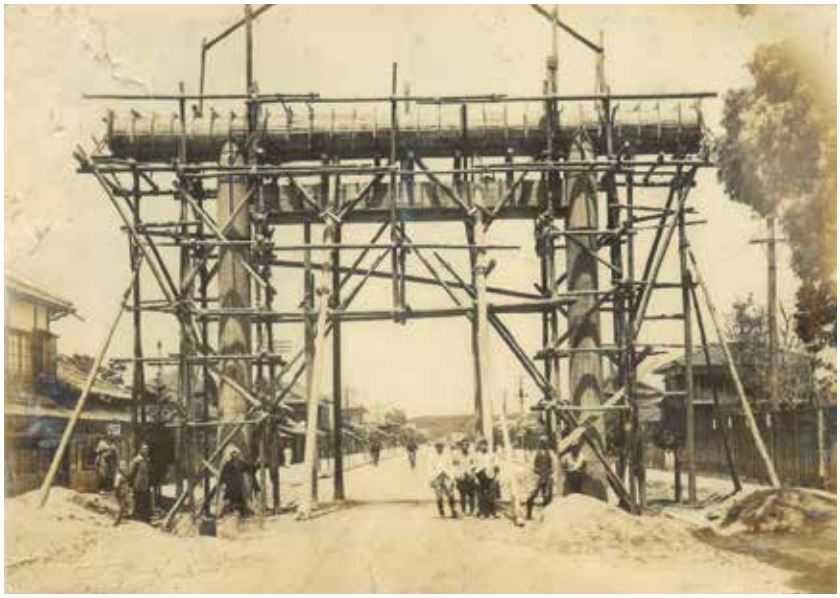
令和六年一月から
令和六年五月まで

【社内辞令】

課長を命ずる
祭儀課長　禰宜　石塚　和也
営繕課長　権禰宜　馬乗園貴稔
教化広報課長
権禰宜　串間　慶士
財務課長
権禰宜　出光　弘忠
（各通二月一日）
禰宜　日髙　憲司
用務員　松元久美子
定年に依りその職を免ずる
（各通三月三十一日）
巫女　松元　由茉
願いに依りその職を免ずる
（三月三十一日）
嘱託　須田　明典
財務課勤務を命ずる
中武みなみ
巫女見習を命ずる
松元久美子
用務員を命ずる
（各通四月一日）
巫女　髙野嵯也香
衛士長　宮崎昭治郎
願いに依りその職を免ずる
（各通四月三十日）
巫女見習　中武みなみ
巫女を命ずる
巫女　八色　南
財務課勤務を命ずる
衛士　横山　大
衛士長を命ずる
（各通五月一日）
小玉　寿美
用務員見習を命ずる
（五月十五日）

宮崎神宮一ノ鳥居

大鳥居改修工事はかどるを朝な朝なに見て出勤す



昭和14年６月４日の様子。同年７月３日に竣工奉告祭が執り行はれました。

過日表参道入口江平町に在る一ノ鳥居は白蟻の被害甚だしき模様なるを以て之を駆除すべく一部銅板を剥きたる所、内部の杉材は全く腐朽し東方の柱は殊に甚しく危険この上もない状態にあるので、萬一の事を慮り取敢へず之を撤去する事に決定、縣の許可を得て六月十八日工事にかゝり十九日未明つひにこれを撤去した。右鳥居は明治四十年、神武天皇御降誕大祭會の事業として美事なる狭野杉を以て建設せられ其後銅板包としたものである。爾来三十餘年宮崎市の一偉観として市民に日夕親しまれて来たのである。因に同所は場所柄早速鳥居を復旧せねばならぬ所なので、縣當局とも協議、唯今計画中である。尚二ノ鳥居三ノ鳥居も相當白蟻の害あり、近く改築せねばならぬ状態になって居る。

（社報『美あかし』
昭和十三年七月一日発行より）

改築五十周年

上記の鳥居は、昭和十三年夏撤去以来貝島太市氏建設費奉納により鋭意工事が進められました。支那事変下鉄筋銅板の統制等により意の如く進まず難渋を重ねつつも、昭和十四年六月二十五日竣成、その偉容を復するに至りました。

しかしながら、その後急速な道路の拡張と交通量の激増により、交通の障害となりました。昭和四十八年国道十号線の拡張に伴ひ、約三十米程神宮側に移動、改築せざるを得なくなりました。

新たな鳥居は、昭和四十八年十二月竣工、神明造鉄筋コンクリート製銅板巻で、巾十二、五米、高さ一五、七五米柱の中径一、二三米笠木の長さ二〇米と従来より大きく改築され、現在に至ります。

今後も当宮はもとより、宮崎の一偉観として広く親しまれゆくことを願ってやみません。

養正
Vol.163
紀元 2684 年
令和６年　初夏号

発行　宮崎神宮社務所　宮崎市神宮２丁目４番１号　電話 0985(27)4004　FAX 0985(27)4030
◎編集　養正編集室　◎印刷所　愛文社印刷㈱
https://miyazakijingu.or.jp/